

地区研修リーダー 寺嶋哲生（柏 RC）

各ロータリークラブに必ず備えるべき委員会として、研修委員会があります。

ロータリーの掲げる「奉仕の理念」を会員一人一人が理解し、その理念が培われたロータリーの歴史や、理念を実現するために必要な方法を習得する。

更に世界のロータリーが志す方向性や、世界のロータリアンが取り組む活動の実例を知る。

ロータリアンとして学ぶべき事柄は、数多く存在します。

鶴沢ガバナー年度において設置される研修系の地区委員会は、①理念委員会、②ロータリー情報・研修委員会、③RLI 推進委員会の三つです。

夫々の委員会では、①ロータリーの目的と奉仕の理念、②ロータリーの過去と未来・新しい情報、③RLI の啓発と実施、などについて各クラブの理解が進むようなプログラムを三委員会協力の基に実施いたします。

以下、研修系三委員会の委員長から、方針の説明があります。

各クラブにおかれては、積極的なご参加をお願い申し上げます。

理念委員会の目的は、意義ある奉仕活動を行ってもらうために、ロータリーの目的を深く理解してもらうこと。

ロータリーの目的は、国際ロータリー定款第4条に記してある通り「意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むこと」であります。

「奉仕の理念」とは、「他を思いやり、他の助けになること」であり、日々のロータリー活動を通じて、自身の職業、家庭、社会、そしてクラブにおいて、この「奉仕の理念」を実践する事が求められます。

実践するにあたり、これらの事を当たり前の事と考えずに、クラブ例会などの機会を設けて、個々の会員の意見に耳を傾けながらクラブの一体感を確認する事も必要であります。

ロータリーの創生や変遷を知る事も大切なものと同様に、それぞれのクラブの成り立ちやこれまでに培ってきた伝統を深く読み取った上で、「ロータリーの目的」「奉仕の理念」を理解する事も大切な部分だと思います。

自分のクラブは、どのような環境の地域で、何を柱として誕生したクラブなのか、先人たちの活動は地域社会にどのような効果をもたらしたのかなど、現在では途絶えてしまった活動もあるかもしれませんが、そこにあった「思い」は引き継がれているでしょう。勿論、求められ継続されている事業もあるでしょうし、一つの恒例行事となっている事業もあるでしょう、それは多くの効果をもたらしているものと思いますが、その根底にある「思いの存在」は、ロータリーにとって欠くことのできない重要な要素であることに間違いはありません。それは「奉仕の理念」そのものであります。

ロータリーは、奉仕をする人を育てる団体として、様々な奉仕活動を会員のスキル向上のために行ってきました。それを基本にして、より多くの人々に認知してもらえるような奉仕活動を行い、より良い公共イメージを広げる事で、会員のスキル向上にも繋がるといった相乗効果も期待でき、また、ロータリーの骨格と位置づけられる「親睦」「職業倫理」「人道的奉仕」を、バランス良く具体的な活動を行う事で、個々の会員の学びの機会にもなり、クラブの活性化に繋がります。

第2790地区では82のクラブがあり、それぞれのクラブの特色があり、主体となる活動も様々であります。前述した「ロータリーの骨格」の何が大事でどれが大事じゃないかという事ではなく、全て等しく考え、自クラブの強みを活かせるクラブ運営を行えば、「ロータリーの目的」に添ったクラブになります。

ロータリー情報・研修委員会 委員長 椎名博信（習志野 RC）

今年度は従来の情報委員会と研修委員会がひとつにまとまり、4名の地区委員さんと共に基本的な情報や新しい情報をクラブ会員の皆様に正しく伝えていく役割を担いクラブのビジョンづくりや中長期計画立案、クラブ活性化につなげていけるように、お手伝いさせて頂きたいと思っております。

寺嶋研修リーダー直轄の研修系3委員会の一員として理念委員会、RLI委員会と共に活動し、ガバナー補佐の皆様と協力して各クラブへの情報提供を行い、地区内全クラブに研修委員会が設置される事を推奨したいと存じます  
また、大きな変革の時代に突入している国際ロータリーの様々な方針や施策を、地区ホームページ等を活用して、会員の皆様方にお知らせしていくことや新設されたDEI委員会（多様性・公平さ・インクルージョン）と協力しての活動も大切だと考えます。

地区チームの研修系委員会として、他の委員会と常に連携を図りながら、ロータリアンとしての学びの研修活動に取り組んでまいりたいと考えておりますので、クラブ及びロータリアンの皆様のご協力を頂きますようお願いいたします。

『より多くの皆様に、楽しく参加していただける RLI』

RLI 推進委員会 委員長 清田浩義（千葉 RC）

RLI ロータリーリーダーシップ研究会は、1992 年アメリカ・ニュージャージー州元 RI 理事デビット・リンネット氏の発案で始まった研修組織です

RLI は『質の高いリーダーシップ研修を通して、ロータリークラブの活性化を目指す』世界 80%以上の地区で展開されているプログラムです

日本では、2008 年 RLI 日本支部が発足し、現在では 34 地区中 29 地区で展開されています

第 2790 地区では、2010-11 年度故織田吉郎ガバナー年度に始まり、今年度で 13 年目になり、600 名近い参加者 そして、DL 資格を取得された方は 170 名に上ります

RLI の魅力の一つは、地区内外の多くのロータリアンが一堂に会し、その出会いを楽しめることです

また、対話形式のプログラムを通して、参加者は、様々な気づきが生まれます  
日頃自クラブの中では味わえない、新鮮な体験を楽しんでいただけます

RLI のプログラムはパートシリーズⅠ・Ⅱ・Ⅲそして卒後コース DL 養成コースと続きます

パートシリーズでは、パートⅠ「ロータリアンとしての私」パートⅡ「私たちのクラブ」パートⅢ「私のロータリーの旅」と 3 つの切り口で、ロータリー談義を味わっていただきます

単に知識を学ぶ場ではなく、ロータリーに関するより深い気づきを得る場です。

「対話と気づき」のプログラムです

参加された皆様のそうした気づきや感動が、クラブ活性化の原動力になるものと考えています

ところで、2023-24 年度 RLI 推進委員会の方針は『より多くの皆様に、楽しく参加していただける RLI』と致しました

現在 82 クラブ中 まだ 12 のクラブが RLI プログラムに参加いただけいていません

是非 一度参加いただき、その楽しさ魅力を味わっていただきたいと思えます

RLI 推進委員会では、より多くに皆様に RLI プログラムを知っていただくための、WEB ビデオやパンフレット（レリーフ）などを準備しています

いまだご参加いただけていないクラブ会長の皆様には、是非 体験いただくと同時に、クラブ会員皆様へのご参加をお勧めください

最後に、2023-24 年度の RLI プログラムの予定について、ご報告いたします

9 月～11 月 3 回にわたり、DL 資格を取得されている皆様を対象とした「DL ブラッシュ

「キャリアアップ研修会」が開催されます

そして年明け2月～4月にかけて3回のRLIパートシリーズが開催されます

5月には卒後コース、そして6月にはDL養成コースが開催され一年間のプログラムが  
終了いたします

会長皆様のご理解 ご協力 あらためて宜しくお願いします

管理運営統括委員会 統括委員長 佐々木 高治 (千葉 RC)

今年度鶴沢ガバナーは管理運営委員会に、DEI 推進委員会、会員増強・退会防止委員会、広報公共イメージ向上委員会、フェローシップ・親睦活動委員会、My Rotary 登録委員会、の5委員会を設置しました。DEI 推進と My Rotary 登録委員会は今までにない新しい委員会です。2019 年以降、国際ロータリー理事会 (RI) は世界 31,000 人のロータリアに「多様性、公平さ、インクルージョンに関する調査」を行いました。そして DEI に関するロータリーのコミットメント声明を発表し更に強化して、DEI の行動規範を承認しています。RI は DEI に対して矢継ぎ早に改革案を発表しています。クラブはその経緯を学びそして理解してクラブ運営にご活用してください。また My Rotary のラーニングセンターに学ぶべきリソースがあります。

ロータリーのイメージアップを図るべく、広く一般の方にもロータリーの活動を告知するように求めています。当地区は、外部に対してロータリーのイメージアップを模索してきました。今年度も更に推し進めロータリーのイメージアップに寄与いたします。

ロータリーは全ての人と尊厳と尊重をもって接し、あらゆる人の声に耳を傾けるようにし、親睦、奉仕、リーダーシップの公平な機会を設けることに力を注いでいます。このような素晴らしい活動が評価されているのでしょうか？ここ数年会員数が増えることはなくむしろ、減少しているのが実態です。女性会員の増強も叫ばれて久しいのですが、思うようには伸びていません。ロータリーは魅力のない組織なのでしょうか？ウクライナの紛争、パキスタンの洪水、シリア、トルコの地震災害、ポリオ根絶にいち早く手を差し伸べ全世界のロータリアンが奉仕を実行しています。今こそ我々の真価を伝え会員増強につなげたいものです。会員同士のつながりには、親睦が欠かせません。会員同士のつながりがより強固になるような、事業を検討してはみませんか。地区補助金の活用もあります。

今述べたことは、My Rotary につぶさに記載されています。パソコンがあれば最新のロータリー情報を入手することが可能です。入会間もないロータリアンの教材、クラブ運営のリソースとさまざま便利な情報があります。是非有効にご活用ください。

今年一年、卓話依頼等何なりと地区へ要望をくだされば、委員会上げてクラブ運営のサポートをいたします。何卒よろしく願いいたします。

DEI 推進委員会 委員長 水嶋陽子（館山 RC）

2023-24年度 鵜沢和広ガバナーの地区テーマは「エンゲージメントを育もう」をテーマタイトルにされました。

エンゲージメントとは、深いつながりを持った関係性を表す言葉だそうです。

ロータリアンとして、クラブそしてロータリーへの深いつながりや関係性を育むことにより、クラブの活性化が図られ、また会員ひとりひとりがクラブへのエンゲージメントを育むことにより各自のモチベーションを高める。

それらが満たされる事により、ロータリアンとしての高いエンゲージメントを持つことになると言われております。

エンゲージメントとの深いつながりを持つことによりクラブへの愛着もなお一層深くなるという事です。

DEI 推進委員会は今年度新設の委員会でございますが、この地区テーマに深くかかわってまいり委員会と認識しておりますので、地区委員会として各クラブに DEI がご理解頂けます様、精一杯つとめてまいりたいと存じます。

さて、それでは DEI とは・・・

ダイバーシティ（多様性）・エクイティ（公平性）・インクルージョン（包摂性）の略として、近年、国際ロータリーはロータリーの文化に新しい価値観を組み入れました。

2019年に採択されましたロータリーのコミットメントに関する声明も、2021年に更新された声明「多様性・公平性・インクルージョンへのロータリーのコミットメント」の声明も更に強化され採択されました。

2020年に提唱されました DEI の行動規範もその一つです。

ロータリーの中核的価値観を反映した、新しい DEI の行動規範として、誰にとっても協力的で、前向きで健全な環境をロータリアン全員が築き、維持するのを支える枠組みとなるものです。

鵜沢ガバナーエレクトのご意向でもございます、DEI の有り方を DEI 推進委員会のメンバーで協議しながら、各クラブに DEI をご理解頂き、会員の皆様方に浸透させて頂く事を第1の目的として委員会活動を進めてまいりたいと考えております。

まずは、各クラブに DEI の推進を図る為には、地区の委員会と受け入れ側の各クラブが、互いに一方通行にならない様にすることが重要と考えております。

本日の PETS の研修にあたりまして、各クラブ会長の皆様に DEI 推進委員会よりご協力のお願いがございます。

各クラブ会長・幹事様におかれましては、マイロータリーの中にございますラーニングセンターより、DEI 研修プログラムにお入り頂き、DEI 研修プログラムを学んで頂きたいと希望致しております。

また、グループ研修会もしくは、DEI を学ぶ為の例会等の企画開催をご検討頂き、クラブ会

員の皆様に広く DEI に関する認識を深めて頂くことをお願いするものでございます。

今年度、DEI 推進委員会はスタートの年となります。

会長の皆様方におかれましては、各クラブの未来ビジョンを踏まえた上で、今後のクラブの有り方をご検討頂けましたら幸甚にございます。

DEI 推進委員会メンバー一同、一丸となって各クラブに DEI がご理解頂けます様、活動してまいりたいと存じます。

皆様、ご協力の程、一年間どうぞ宜しくお願い申し上げます。



## Bring up Engagement !!

2023-24 年度、鶴沢和広ガバナーは、地区のテーマを

『エンゲージメントを育もう』と掲げられました。

個のロータリアンとして、ロータリー、自クラブ、クラブの仲間との間に、信頼、愛着、帰属意識、誇りを実感できると貢献感、適合感、仲間意識が満たされる。

そしてその事は、クラブに貢献したいという思いに繋がっていく。

これこそが、エンゲージメントであり、会員増強・退会防止委員会としての今年度の役割は、そのエンゲージメントを育むお手伝いをする事です。

素晴らしい奉仕活動、親睦、世界平和、社会貢献、こういった活動を共にするロータリーのお仲間を増やすため、会員増強において顕著な成果が見られるクラブから情報を収集し、そのノウハウを共有し伝えていきます。

また退会防止についても、地区内の様々なクラブの現状や実例を調査し、ご提案していきます。

具体的な活動としては、年度初めに、各クラブの実態及び要望調査としてのアンケートをクラブオールしますので、ご協力をお願い致します。

また卓話に関しましては、会員増強月間は 8 月ではありますが、月間を問わず通年、お声かけを頂ければ、日程を調整し、お邪魔させていただきます。

更には、まだロータリアンでないご友人に、分かり易くロータリーを理解して頂けるようなツールの作成にも取り組む予定です。

会長の皆様におかれましては、未来のクラブのありたいカタチを想像しながら、それぞれの理想とするクラブの環境がどんな場所なのか、その理想に近づける為には何が必要なのか。

当委員会は、そのお手伝いができればと思います。どうぞ1年間、宜しくお願い致します。

広報・公共イメージ向上委員会 委員長 松永達人（富里 RC）

鵜沢ガバナーの地区テーマ「エンゲージメントを育もう」を心に刻みながら一年間地区委員として貢献させていただく所存ですのでよろしくお願いします。

ロータリーの歴史上、広報というのは控えめに行ってきたように感じます。ですが時代の流れ、環境の変化とともにロータリーのブランドを広報する必要性が高まってきました。私自身、ロータリーの仲間として加えさせていただき、たくさんのロータリーのすばらしさを知ることができました。しかしロータリーを知れば知るほど、奥深いロータリーの魅力を発信するというのはなかなか難しいものだと思います。より周囲にわかりやすい、インパクトのある広報活動をしていかねばならないと強く感じています。

青少年奉仕活動や地域奉仕活動、海外プロジェクトなどなどロータリーの発信素材は大量にあります。また、国際ロータリーが1985年より掲げているポリオ根絶プログラムを、一つの感染症を根絶させる奉仕団体としてアピールすることが重要となります。より多くの周囲の人たちにターゲットを広げ、より理解していただきやすい広報活動を皆様のクラブに意識していただきたいと思います。

2790地区ロータリアンの一人ひとりが広報意識を高めていただき、奉仕活動、親睦活動を広報視点で考えてみていただくことが周囲へのロータリーの理解、また新たな仲間を増やすことができるチャンスだと考えます。「ロータリーって良いことをしているなあ。ロータリーって楽しそうだな」と一般に周知できれば最高だと思います。

時代は今、ロータリーにあります。また我々2790地区にあると考えます。その素晴らしいロータリーの魅力を多くの人たちに知っていただきましょう！

**世界に希望を生みだそう  
エンゲージメントを育もう**

鵜沢和広ガバナーエレクトが掲げられた次年度のスローガンを受けて Fellow Ship お仲間であることとは、地区のロータリアンの皆様方との楽しく平和な会話であると考えました。楽しく平和な会話から奉仕も生まれ希望も生まれると私は考え、そのための努力をする所存でございます。

また、1935年ポールハリス氏は

多様性を受け入れることは、ロータリーの創設と歴史に根づいています。

社会では多様な人種、信条そして政党の人々が楽しく親睦できる場所が求められており、社会の関心はそのような場所を提供することに向けられているとロータリーは考えています。とおっしゃっておいりました。

現在わが地区におきましては、4つの同好会が親睦活動をしていらっしやいます。(地区野球リーグ、二輪の会、スリランカクラブ、女性交流会)この同好会の活動をさらに地区の皆様方知っていただき、積極的な参加も賜りたいと存じます。そして前年度、前々年度委員長からの引継ぎといたしまして職業分類データベース化に伴った親睦のコミュニケーションツールを現実化し、親睦である趣味、スポーツから生まれるであろう何か奉仕したいというお気持ちを発信したくご協力を賜りたくお願い申し上げます。

そして鵜沢ガバナーエレクトよりロータリアンでなくては経験できないような事を企画してほしいと拝命いたしました案件も委員の皆様方と協議しながら実行して参る所存でございます。

素敵な皆様との楽しく平和な会話の中から、そして御協力を賜りながら親睦という花を皆様と咲かせていただきたくお願い申し上げます。

ロータリアンの皆様、「My Rotary」の登録はお済でしょうか？

「My Rotary」は今から 10 年前の 2013 年 8 月に発表され、現在ではロータリーの持続可能性において無くてはならないツールとなっています。しかし、第 2790 地区の「My Rotary」登録率は現在 40%弱となっています。この状況は「My Rotary」を特に必要としていないと考える方にとっては興味のない存在となっているからではないでしょうか。これは我々ロータリアンにとって「My Rotary」がなぜ必要で、どのように活用されているのかの情報が少々伝わりにくかったのかもしれませんが。

2011-12 年度に「今ロータリーは何をしている？」という問いが出されたようですが、この問いに答えられるロータリアンは少ないように思われます。そしてこの問いのヒントになるのが、世界的なロータリーのネットワークを形成し、クラブ単位ではなくロータリアン個人のオンライン拠点となる「My Rotary」なのです。

本年度は「My Rotary」の魅力と必要性を感じる「具体的な何か」を見つけ出し皆さんにご紹介させていただき、技術的な登録方法も含めて登録推進活動をしていきます。

奉仕プロジェクト統括委員会 統括委員長 水野晋治（柏西 RC）

高田新也副委員長とともに統括委員会の運営に当たらせていただきます。

当委員会は、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、環境委員会の5つの委員会から構成されております。

来年度当委員会では、クラブの奉仕プロジェクト立案の支援に加え、いくつか実践的なプロジェクトを独自に実施したいと考えております。

中でも、地区内会員の職業や個人のスキルを活かした奉仕活動を実施したいと考えております。職業奉仕委員会のみならず、統括委員会一丸となり取り組みたいと思います。

その上で、クラブの会長をはじめ、奉仕プロジェクト委員長などのご協力が不可欠です。今後様々な機会を通じ、情報提供のお願いをする事があると思います。その際にはよろしくお願ひ致します。

その他にも社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕、環境委員会では、各クラブへの情報提供、後方支援以外にもいくつかの実践的なプロジェクトの実施や、希望の風奨学金支援への理解を広く得られるようなイベントも実施したいと考えています。

また、2021-22 年度国際奉仕委員会にて発表がありました新たな国際奉仕の相互協力の枠組み「T S N A G U 2 7 9 0」を継承し、次の年度以降へしっかりと引き継げるよう来年度で確立をしていきたいと思ひます。

具体的には、一クラブだけでは実施できないような金額、規模のプロジェクトを他のクラブと協力をし合える仕組みを作るといふものです。

今後早い段階で具体的な仕組みなどを発表していけるよう統括委員会としても担当委員会と共に取り組みたいと思ひます。

秋以降に開催予定の奉仕プロジェクトセミナー（仮称）にてこれらについてより具体的に発表したいと思ひます。

最後に、恒例となっております、地区補助金申請の選考においては、ロータリー財団委員会と協力し当委員会なりの視点で選考に参加させていただきたいと考えております。当委員会の評価基準などは今後関係委員会との協議の上、発表致します。

今後より具体的なご協力のお願いをさせていただく事になるとい思ひます。

皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひ致します。

職業奉仕委員会 委員長 鈴木荘一（君津 RC）

当委員会では地区会員皆様の職業スキルを活かした活動を【実践】できる様、地区内各クラブの職業スキルを活かした情報を共有すると共に、それら情報を通じてクラブの会員皆様がロータリーへの参加意識を高める、ロータリーの輪が広がる・つながるような活動を心掛けて取り組んで参りたいと考えております。

皆さんご存知の通りロータリーの名称は、創設当初、ローテーション（輪番）で各会員の職場を例会場としていたことに由来します。各会員皆様が自分の職業について話し、互いの職業について学び合い、多様な職業や経験をもつ会員が地域社会のさまざまな職業、ビジネス、団体とのつながりを生かした活動を実践されています。

委員会名に併記されている VTT とは、「職業研修チーム」VTT (Vocational Training Team) という 2010 年にスタートしたロータリー財団の「未来の夢計画」によって生まれたプログラムです。

{特定の分野の専門家チームを海外に派遣（あるいは受入れ）して研修を行い、地域社会の発展に寄与することを目的としています。また、研修を通じ、専門分野以外でも地域間の理解や交流に貢献します}

VTT で実践されている国際社会で職業スキルを生かし、専門能力の開発・指導するという奉仕プロジェクトにつながる活動を地区会員皆様と一緒に模索してまいりたいと考えております。

一年間ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

社会奉仕委員会 委員長 中村吉政（勝浦 RC）

RI 会長ゴードン R マッキナリー氏は、『世界に希望を生み出そう！』を、また当 2970 地区鶴沢 G E は、『Bring up Engagement（エンゲージメントを育もう！）』をテーマに掲げました。エンゲージメントとは、「約束」または「誓約」という意味ですが、ここでは私達 2790 地区の会員に対して、自分のクラブや地域に対して「貢献する」という気持ちを育んでいただきたいという解釈です。様々な職業人の集まりである私達ロータリアンは、各々の職業スキルを活かして地域のため社会のために活動する、奉仕する、貢献するという気持ちを今よりももっと育んでいって欲しいというメッセージであります。私達は、様々な職業スキルを兼ねそろえた職業人ゆえに、何かしら必ずや地域のため社会のために貢献できることがあるはずです。既に多くのクラブは、それぞれの地域において、様々な社会奉仕活動を実践されていると思います。地区と致しましては、皆様のクラブで行われています社会奉仕活動をサポートして参りたいと思います。充実した活動が実践されているクラブは良いのですが、社会奉仕活動がマンネリ化している、またはどんな社会奉仕活動をしたらいいのか分からないというクラブに対して、他のクラブで行われている社会奉仕活動情報をご提供させていただきます。地域性もありますが、他クラブの素晴らしい活動は必ずや自クラブ・またロータリアンご自身の活動に生かせると思います。社会奉仕活動に行き詰った際には、どうぞ地区まで遠慮なくお問合せ下さい。

一方、地区全体としては、当社会奉仕委員会単独ではなく、職業奉仕委員会や国際奉仕、青少年奉仕、環境委員会と連携して奉仕プロジェクト全体として事業を実施して参ります。

また、財団委員会とも連携し、各クラブに「地区補助金」の積極的な活用を促し、クラブの奉仕活動に大いに役立てていただきたいと思います。

皆様の社会奉仕活動を通じて、クラブの活性化並びに、ロータリアン各々が地域に貢献するという気持ち＝エンゲージメントを育んでいきましょう。1年間、宜しくお願い致します。

国際奉仕委員会 委員長 藤本行宣(我孫子 RC)

2023～24 年度 ゴードン R・マッキナリー国際ロータリー会長は、次期地区ガバナーに向けて“世界に希望を生み出そう”をテーマとして発表されました。

これを受けて、2023～24 年度 鶴沢和弘ガバナーは“エンゲージメントを育もう”を当地区 スローガンとして掲げられました。

これらを踏まえ、地区国際奉仕委員会としては、高田新也 2022-23 年度国際奉仕委員長が提唱された“TSUNAGU2970”プロジェクトを恒久的に遂行して参ります。

この“TSUNAGU2970”プロジェクトは、あるクラブが行う国際奉仕事業に賛同された他のクラブが、その事業に対し支持の意を込めて金銭を拠出頂くものです。(金銭の多寡は不問です)

ひとつの国際奉仕事業プロジェクトを遂行するには、相応のエネルギーが必要です。この“TSUNAGU2970”プロジェクトの事業活動自体は、起案提唱したクラブが行うものですが、拠出したクラブもプロジェクトの節目に参加し、この事業活動の共同意識をお持ち頂きます。

これにより、次は自らのクラブも積極的に国際奉仕事業を行おう！とロータリアンが奮起して頂ければ、2790 地区全体が活気づくものと考えます。

現在国際奉仕活動を行っていないクラブに対し、国際奉仕活動の必要性を認識して頂くために、すでに実績のある国際奉仕活動を具体的に伝播する啓蒙活動を実施します。

また各クラブに対して、ロータリー財団委員会と緊密に連携を図り、ロータリー財団グローバル補助金事業を利用した、国際奉仕活動の支援も積極的に推進して参ります。

まだまだ直ぐに従来のような国際奉仕活動を実施することが困難と存じますが、鶴沢和弘 ガバナーのスローガンに則り、次世代ロータリアンへ奉仕活動の必要性をコミュニケーション致します。



青少年奉仕・地区学友会委員会 委員長 沢田 克洋（成田コスモポリタン RC）

これまでの3年間はコロナの影響もあり、思うように活動できない部分もあったかと思いますが、今年度は出来る限りリアルで活動を行って参りたいと考えております。

ロータリーのプログラムを経験したロータリー学友である ROTEX、RYLA 経験者、ローターアクト、及び財団奨学生学友会、米山奨学生学友会等を中心に、地域社会に向けた奉仕活動を展開すると共に、各セクションの青少年関係の事業に対して互いの協力を図る事を目的に活動してまいります。

近年はコロナによる事業活動の制限や、交流が困難でありましたが、3/13 日からはマスクの着用について一部を除き、屋内・屋外問わず個々の判断に委ねられるなど、通常の生活に戻りつつあります。このような事から、今年度はこの3年間の交流が困難だった時間を取り戻す期間としてデジタルとリアルを組み合わせた運営を心がけ、ロータリー学友がそれぞれの活動と共に、ロータリー学友同士が横の繋がりを取り戻し、ロータリー学友とロータリアンの関わりを強くし、共に奉仕活動やイベントの交流が活発にできるような運営を心がけていきたいと考えます。

また、当地区でも衛星クラブが立ち上がり、今後の活躍が期待されております。願わくはロータリー学友がローターアクトやロータリークラブへ入会したいと思うような強い絆を育んでいくことも望んでいます。具体的な活動方針としては、ロータリー学友でメンバー構成された「第2790地区ロータリー学友連絡協議会」を運営し、各学友とクラブとの連携を図ります。また、ロータリー学友のそれぞれの活動・プログラムをご理解いただくために「ロータリー学友と繋がる交流会」を開催したいと考えております。

尚、RI の指示でもあるハラスメントの防止、対策などの方法も考えていきたいと思っております。各クラブのみなさまへお願いがあります。今まで以上にロータリアンとロータリー学友の交流の場を作っていきたいと思っております。そのために、各クラブの奉仕プロジェクトやイベントにロータリー学友をお誘いいただきたいと考えております。その際には、私たち委員会にお声掛け頂きますよう宜しくお願いいたします。最後に、ロータリー希望の風奨学金は東日本大震災の被災遺児となった青少年たちが学業を継続できるように立ち上げられたプロジェクトです。青少年奉仕の観点からも、当委員会が担当してまいります。皆さまのご理解とご協力をよろしくお願い致します。

環境委員会 委員長 窪田 謙 (富津シティ RC)

2023~2024年度、国際ロータリーゴードン・R・マッキナリーRI 会長のテーマ「世界に希望を生み出そう」です。

そして第2790地区、鶴沢エレクトの地区のテーマは「Bring up Engagement」

\*エンゲージメントを育もう\*です。貢献意欲という事です。

今まさしく世界では至る所で、さまざまな地球環境問題が起きていて、いろいろな災害が発生しています。

我々ロータリアンは、地球的課題を解決していく為に、持続可能な社会を目指す国際目標を掲げて環境問題に対して真剣に考えて取り組み、1人1人が今出来る事の意識を持つ為の講演や勉強会を行なっていきたいと考えます。

そして鶴沢エレクトの来期の思いとして、奉仕プロジェクト統括委員会は、職業奉仕、社会奉仕、国際奉仕、青少年奉仕：地区学友会委員会、環境委員会が協力して、青少年を交えたプロジェクトが出来る事を望んでいますので、水野奉仕プロジェクト統括委員長を中心に、各委員会メンバーと一緒に考え、協力をして活動をしていきます。

その中でも1つ、行いたい事として今現在日本遺産の候補に挙げられています、千葉県の富津市と鋸南町にまたがる鋸山を是非、皆様に紹介したいと思えます。

鋸山は今現在日本遺産として3つの中の候補に挙げられています。

1つは京都、もう1つが北海道の小樽です。この3つ中に挙げられている鋸山を是非皆様と一緒に応援して第2790地区でも有る千葉県から日本遺産に成るように知って頂き、是非とも足を運んでもらい、鋸山の素晴らしさを解って頂けるようセミナーを行ないたいと思えます。

皆様のご理解とご協力を頂き1年間どうぞ宜しくお願い致します。

各委員会の概要をご説明いたします。

■ インターアクトクラブ

12～18 歳の人たちが集まるインターアクトクラブでは、インターアクト会員が、リーダーシップを発揮する力を磨きながら、奉仕プロジェクトや活動を通じて国際感覚を養っています。

地区内 13 のインターアクトクラブが活動しておりますが、新型コロナウイルスの影響か？ 会員数が減少しております。

インターアクトクラブ



■ ロータリー青少年交換

世界 100 カ国以上で実施されているロータリー青少年交換は、ロータリークラブの支援の下、15～19 歳の学生が外国語や異文化を学びながら、世界市民としての自覚を養うことのできるプログラムです。平和の実現を目指して国際理解を促し、若者一人ひとりの育成を支援します。

ロータリー青少年交換



■ ロータリー青少年指導者養成プログラム (RYLA)

RYLA は、若い人たちが楽しみながら新しいスキルと自信を身につけることを目指すリーダーシップ養成プログラムです。このプログラムは、1 日のセミナーから 1 週間の合宿までさまざまな形で行われます。

当地区のプログラムは、1 泊 2 日の歩行ラリーです。

ロータリー青少年指導者養成



2020 年 3 月 WHO のテドロス事務局長が「新型コロナウイルスはパンデミックと言える」と表明してから 3 年が経ち、わが国では 2023 年 5 月には感染症法に基づく感染症の分類が、5 類に引き下げられる予定です。

新型コロナウイルス感染症の影響で実施出来なかった青少年プログラムですが、2023-24 年度から全面的に活動を再開していきます。

だからと言って、新型コロナウイルス感染症を世界が克服した訳ではありませんので、安全・安心な活動を重視し、次世代のリーダーを育てることの大切さや教育の機会を広げ、若い世代のリーダーがリーダーシップのスキルを身につけ、奉仕の価値観を学べるよう応援してまいります。

ご支援ご協力いただきますようお願い申し上げます。

インターアクト委員会 委員長 土井豊彦（成田 RC）

初めに、私は 49 年前にインターアクトクラブに入会し、3 年間色々な事を学び、経験し、インターアクトクラブの活動が私の人生に大きな影響を与える機会となりました。

私はインターアクト時代に自校の先輩後輩、同年代はもとより、他校のインターアクトメンバーとも交流し、年次大会、交流会、募金活動、施設訪問、ゴミ拾いなど全て初めての経験をしました。

時代の違いはありますが、今もインターアクトの理念は変わらないものと信じています。インターアクトクラブの顧問の先生方、例会に足を運んで下さったロータリアンの方々から、自分の目の前に広がっている世界は無限大と思えるお話を沢山お聞きしました。

今回、インターアクトの地区委員長になる前に 21-22 年度委員長と 22-23 年度委員長と話し、現状と同様の活動は出来ませんと伝えたところ、活動内容をブラッシュアップして良いとアドバイスを頂き、引き受ける次第となりました。私は自分の経験を踏まえインターアクトに対しての強い思いがあり、出来る限りアクター達と共に今年度、一緒に取り組む思いでおります。

3 人の委員と連携強化して、より良い 2790 地区インターアクトを築き、インターアクターと共に夢を持ちたいと思い努力していきます。

コロナ禍で中止になっていた海外研修も復活させて行きたいと強く思っております。ガバナーの意向に添える様に頑張ります。

青少年交換委員会 委員長 田村 隆治（八千代中央 RC）

青少年交換委員会では、交換留学を行っており、毎年数名の学生の派遣と受入を行っております。年齢を問わず、異文化に接することは国際理解と平和を推進する最も効果的な方法だと考えます。**ロータリー青少年交換プログラム**は、海外の人々と交流し、異文化を体験することによって、生涯にわたる国際理解の種を蒔く機会を青少年に提供しています。異文化を理解し、国境を越えた友情と信頼を築く機会をもたらすことで、世界の平和を少しずつですが実現できます。

青少年交換は、参加する青少年やロータリアンのみならず、地域社会にも非常に多くの恩恵をもたらします。青少年交換による親密な交流を通じて、地域社会全体も豊かになると確信し、以下、3つの基本方針を掲げて活動してまいります。

○**青少年の育成と世界平和を目的とし、日本を担う人材育成に務める**

青少年交換プログラムでは、単に語学研修ではなく、派遣した学生が成長することで、信頼の輪が国内のみならず世界的に広がることを目指しています。

○**インバウンドの帰国後の学生とも交流を深め、国際交流を活発にする**

受入学生が帰国した後も、ホストファミリーやホストクラブなどと交流を続けることで、国際交流が活発になることを目指しています。

○**各クラブへの青少年交換事業の啓発**

本事業はクラブの事業であることから、より多くのクラブに参画していただきたく、地区委員会としては多くのクラブに認知されるよう啓発活動にも努めたいと考えております。

以上の基本方針で委員会メンバー一丸となり1年間活動してまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

RYLA 委員会 委員長 井上英博（柏 RC）

RYLA 委員を2年勤めまして3年目で委員長となりました。

1年目は座学のセミナーを企画し、コロナのまん延により延期、6月の末に開催となり、2年目は岩井海岸での歩行ラリーの開催となりました。

2023-24年度も鶴沢ガバナーより歩行ラリーを行うよう指示を受けておりますので、2790地区 RYLA 委員会伝統の歩行ラリーを開催するべく、準備を進めたいと思います。

1泊2日のセミナーは長丁場ではありますが、ガバナーもおっしゃる通り、参加青少年の1日目と2日目の成長ぶりは目を見張るものがあります。

ゴールにたどり着くには容易ではありませんが、ハードルが高くあるほど、克服した時の達成感は感じられるものと思います。

課題を当日チームとして知り合ったばかりの仲間とディスカッションをしてまとめていく、リーダーとしての経験とコミュニケーションを磨く、実践の場となります。

また、セミナー中、青少年の皆さんをリードしていくのはローターアクトの皆さんです。

RAC 拡大委員会の中沢委員長とご相談しながらセミナーの準備をしていきたいと思います。

また2790地区の各クラブから実行委員として参加していただき、セミナーの準備、お手伝いをしていただける皆さんのお力も必要です。

ぜひ、ご協力いただければと思います。RYLA 委員会では参加する青少年の皆さんの良き体験の場となるよう、安全にも十分心掛けセミナーを開催していきたいと思います。

ロータリー財団と言えば、主に皆様にご寄付をお願いする委員会ですが、ご寄付の目的並びにご寄付がどのように効果的に利用されているかにつきましては、このあと具体的に、6つの委員会の委員長から、発表を申し上げます。

さて昨今では、我が国日本においても、かつては考えられないような事件、親が子供を虐待放置の上死なせてしまったり、老人の居宅を襲撃する事件、そしてそれが組織的に行われているという事実には愕然としています。これは、20年程前からのゆとり教育導入による学校の週休2日制、あるいは学習指導要領の改訂に伴い、中学高校において倫理という科目が必修ではなくなっている現状に、少なからず起因するものと考えます。倫理とは、社会生活の中で人として守るべき道です。困っている人がいたら手を差し伸べる、人を殺めるトラブルや戦争があってはならない。私たちロータリアンは常にこの倫理観を持って、地域で世界で平和の為に行動するところでございます。

そのように考えますと、ロータリー財団へのご寄付、特に年次基金は、クラブが、地域や世界で「他人のためになる」プロジェクト実施のため、補助金という形で申請し使用することが出来ますし、同時に、自分のクラブの手の届かない世界のどこかで、本当に困っている人たちを助ける事に活かされます。つまり寄付という行為が、地域や世界で倫理を実践することにつながると、広義に捉えております。更に、倫理教育が欠落してしまったと思われる一部の世代の方々も、私たちのサービスという行為を見て、人としてあるべき道を改めて考えてくれるのではないのでしょうか。

さて先月から今月にかけて、クラブの皆様には、昨年6月に発生し被害著しいパキスタン洪水救援基金はじめ、トルコ・シリア災害救援基金のご案内を差し上げたところであり、ご協力いただきました皆様に御礼を申し上げます。私たちは、現地に赴き直接支援することは難しいですが、財団を通しての資金援助は、健全でありかつ最も効果的に使用されるものですので、ご安心いただきたく思います。

また、今申しあげました直接的な金銭のご寄付に加え、奉仕活動がもたらす、地域や世界の人々とのつながり、更には財団奨学生やR平和フェローの皆さんへのサポートを通してのつながりが生まれます。正に、ロータリー財団では、物心両面での支援が可能です。そしてこのことが、私達ロータリアン一人一人を更に成長させるとともに、充足した人生のプラスとなると考えます。

さて先週の会長エレクト研修セミナーにおいて、鶴沢ガバナーエレクトは、次年度は「Bring up Engagement」エンゲージメントを育もう、と呼びかけられました。エンゲージメントとは、約束や誓約を意味し、ロータリーや仲間に対する貢献意欲でもあると説明されました。会長エレクトの皆様におかれましては、クラブ内財団委員長はじめクラブ会員の皆様に、R財団への貢献意欲を高めるお役目をお願いしたいと思います。

変わらぬR財団へのご理解ご協力を併せてお願い申し上げます。

財団資金管理・寄付推進委員会 委員長 荒井光江(市川東 RC)

ロータリー財団の寄付は大きく分けると年次基金、ポリオプラス、恒久基金、その他基金に分かれております。中でも年次基金には毎年寄付をお願い致しております。年次基金寄付は、ロータリー財団への寄付の基盤です。地区補助金プログラムやグローバル補助金の主な資金源等になります。当地区では会員1人当たり150ドル・ポリオプラス30ドルを目標に寄付をお願いしております。

年次基金が今日の財団プログラムを支える一方、恒久基金は明日の財団プログラムを確かなものに、元金には手を付けず投資収益のみを使います。

ポリオ基金は、ポリオを世界から撲滅するという目標を達成するために利用されます。治療法のないポリオに対する最善の対策は予防です。ロータリアンはこれまで、122カ国、20億人以上の子供たちへポリオ予防接種を支援してきました。わずか60円ほどのワクチンで、一人の子供を生涯ポリオから守ることができます。ポリオ撲滅のための基金「ポリオプラス」へは毎年1人当たり30ドルの寄付をお願いしています。

年次基金寄付は3年後にシェアシステムにより地区財団活動資金として戻ります。

ロータリー財団では皆様の寄付に対し感謝の印として認証レベルと認証品をご用意しております。

毎月配信していますMCR(月次寄付レポート)にて地区内各クラブの寄付状況をご確認頂く事が出来ます。

また、寄付ゼロクラブを無くすことはもちろんの事、補助金を活用した事業のご検討をお願いして頂き、各クラブの活性化にお役立ていただければと思います。

今後ともロータリー活動に対し皆様のご協力を宜しくお願い致します。



グローバル補助金プロジェクト委員会 委員長 栗原洋一（千葉北 RC）

財団委員会は5年目です。どうぞ宜しくお願い致します。

グローバル補助金は、ロータリーの7つの重点分野に該当し、更に持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模（事業予算3万米ドル以上）の国際的奉仕活動を支援します。

地区補助金と大きく異なる点は、①2ヶ国以上のクラブの協働事業である事。②1年以上に亘る事業である事。③申請は各クラブ自身が行う事。等いくつかございます。中でも④いつでも申請ができる事。というのもございます。是非、姉妹クラブや友好クラブがあるクラブは、チャレンジしてみてください。

最後に、グローバル補助金による活動の種類には①重点項目に合致した「人道的プロジェクト」②ロータリーの重点分野に合致した大学院レベルの留学に対する「奨学金」③専門職業に関する研修を提供するチーム等の海外派遣である「織業研修チーム VTT」の3種類がございます。

②と③もチャレンジしてみてください。

一年間、宜しくお願いします。

## 地区補助金プロジェクト委員会 委員長 富 一美（成田空港南 RC）

当委員会は、当地区内の各クラブや地区委員会から申請される地区補助金について担当させていただきます。

地区補助金とは、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的で完結する活動を支援するための補助金です。

ロータリー財団の使命（ロータリアンが、健康状態を改善し、教育への支援を高め、貧困を救済することを通じて、世界理解、親善、平和を達成できるようにすること）に当てはまる活動であり、かつロータリアンが積極的に関与する活動であることが条件とされております。

具体的な活用例として、以下の様なさまざまな奉仕プロジェクトに柔軟に活用できます。

- ・人道的プロジェクト（奉仕活動を行うための現地への渡航や災害復興活動など）
- ・奨学金（教育機関のレベルや場所、支給期間、専攻分野の制約なし）
- ・青少年プログラム（ロータリー青少年交換、ロータリー青少年指導者養成プログラム [RYLA]、ローターアクト、インターアクト）
- ・専門職業をもつ人びとから成る職業研修チームの派遣（現地の人びとに職業研修を行うチーム、または現地で職業スキルを学ぶチーム）

この他にも地区補助金は、国内でも海外でもさまざまな奉仕プロジェクトの活動が可能となっておりますが、いずれもロータリー財団の定める「授与と受諾の条件」の遵守が求められています。

2023年1月28日に開催された2023-24年度RID2790補助金管理セミナーでもご説明させていただいておりますが、地区補助金に関するアンケート調査結果を受けて、2023-24年度に限って、試験的に以下の点について申請内容が3点ほどブラッシュアップしております。（2024-25年度以降については、申請状況により変更される可能性があります）

1. プロジェクト1件あたりの補助金上限額（下限設定はありません）が、上限額が30万円から60万円使用可能となりました。（※クラブ拠出金は変更なく、事業費支出の50%以上です。）
2. クラブからの申請可能な件数が1クラブあたり1件までのものが、最大2件のプロジェクトまで申請可能となりました。
3. 受益者が変わる複数年度プロジェクトについてはその都度協議していたものが、最長5年のプロジェクトまで申請可能となりました。

地区補助金のご利用には参加資格認定を得る必要があります。先般、同じく1月28日に開催された「補助金管理セミナー」への参加とMOUの提出、財務管理計画規定の作成が必要となります。申請書の提出期間は3月1日～31日の1か月間となっております。24-25年度の事業については、23-24年度で立案・申請が必要ということになりますことをご留意ください。

当地区での 2022 - 23 年度地区補助金申請率は、82 クラブのうちの 32%でした。これは他地区と比較すると決して高い数字ではありません。地区社会奉仕委員会並びに国際奉仕委員会とコラボレーションをしながら、複数の社会奉仕・国際奉仕プロジェクトの開発、実現に向けて更なるご支援をさせていただきたいと考えております。

結びに、これらの財源である地区財団活動資金（DDF）は当地区からの 3 年前の年次基金寄付金が元となっております。皆様からの寄付金が財源でありますので、是非多くのクラブにご利用いただき、より大きなインパクトをもたらすことにより、クラブの活性化、そして地域社会に役立てていただければ幸いです。

奨学生・学友委員会 委員長 藤崎 康人（成田コスモポリタン RC）

当委員会が担当するのは、自国の若者を奨学生として外国へ派遣するロータリー財団の奨学金事業です。この奨学金の対象は、地区補助金奨学生とグローバル補助金奨学生の2種類の奨学生です。

まず一つ目の地区補助金奨学生は、ロータリーの理念とロータリー財団の使命に即した修学と奉仕を志し、奨学金の給付等を通じて国際理解と世界平和の促進を支援することを目的としております。

2023年9月1日から2024年6月30日まで、新学期から、大学または大学院で修学を開始する奨学生の支援で、地区財団活動資金から2万ドル授与されます。

もう一つのグローバル補助金奨学生は、ロータリー財団が定めた7つの重点分野（平和の推進、疾病との闘い、きれいな水の提供、母子の健康、教育の支援、地元経済の成長、環境）のいずれかに合ったキャリアを目指し、大学院レベルの研究目標もそれに沿ったものであり、海外の大学院又は、大学院レベルの研究機関で勉学する意欲のある奨学生の支援で、地区財団活動資金(DDF)から22223ドル、国際財団活動資金(WF)から17777万ドル、計4万ドルが授与されます。

（2021年7月よりWFの補助金上乘せはDDFの1.0から0.8に引き下げられています。）

応募に関する問い合わせは、申請者から直接クラブに行きます。その際は地区補助金セミナーでお配りした、ロータリー財団ハンドブック・補助金マニュアル2023-24年度用をご覧いただき、応募資格、奨学金の条件、応募の手順、提出書類等、参考にしてください。

また申請書の書式は、地区のホームページに掲載されているのでダウンロードしてください。

2022-23年度は、一昨年に続き、新型コロナにより、いろいろ困難がありましたが地区補助金奨学生1名、グローバル補助金奨学生4名を派遣し、現在、派遣先で研鑽を積んでいただいております。

ぜひこの奨学金制度を活用して頂き、地域や世界で活躍できる未来のリーダーと一緒に育てて行きたいと思っております。皆様のご協力を宜しくお願い致します。

ロータリーポリオプラス委員会 委員長 永野 知英 (千葉幕張 RC)

ロータリー歴 8 年の若輩者ですが誠心誠意努めていく所存ですので、皆さまよろしくお願いいいたします。

ポリオプラスとは 1985 年に設置された地球上からポリオという伝染病をなくす目的のロータリー財団の事業です。ポリオプラスの（プラス）とは当初、ポリオをなくすワクチン投与作業に準じてその他の伝染病をも防ぐプラスの意味でした。このプラスは時とともに進化し、ポリオ根絶活動を推進していく過程で様々な副産物を生むようになりました。

例えば、ポリオワクチンを投与する時、ビタミン A のサプリメントと一緒に配布して健康面での効果を上げたり、ワクチンの運搬、保存のための新しい物流システムやポリオ発症を監視する世界的ネットワークができ、他のウイルスの感染症の状況も監視できるようになりました。

ロータリーにとっては、ポリオプラスプログラムは奉仕活動の代名詞であり、ロータリー組織の土台と言っても過言ではないでしょう。

ポリオ根絶にはロータリアン一人ひとりの地道な活動、寄付が必要であります。当地区におきましては、お一人当たり 30 ドルのご寄付また、自動的に RI からの寄付によるポリオプラス基金の増加が実現されるロータリーカードへの加入をお願いしております。

次年度は地区のポリオイベントとして、各所調整中ではございますが 8 月に行われる「千葉親子三代夏祭り」でポリオイベントを企画中でございます。是非 2790 地区のロータリアンの皆さまと一緒に赤いポリオ T シャツを着てお神輿を担ぎ、ポリオ根絶祈願のために心を一つにして啓発活動が出来れば幸いです。そして出来ましたら、世界ポリオデーでのイベント活動の開催を、各クラブにお願いしたいと思っております。

鵜沢ガバナーエレクトは地区テーマに「エンゲージメントを育もう」と発表されました。当ロータリーポリオプラス委員会では、ロータリアンの皆様に RI・地区・また自分の所属するクラブに愛着を持っていただけるよう、ロータリーのポリオプラス活動について丁寧に情報発信することが一番の使命と思っております。

近い将来、世界中でのポリオ根絶を成し遂げ、皆さまと祝えることを信じ、誠心誠意取り組んでまいりたいと思っております。一年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

皆さん、ロータリー平和フェローシップをご存知でしょうか？

平和フェローシップについて簡単にご説明します。

① この平和フェローシッププログラムは、ポールハリスの没後 50 年を記念して 2002 年に創設された奨学金制度であります。ポリオ撲滅活用に次ぐロータリーの重要なプログラムとされています。

過去 1600 人以上のフェローを輩出しております。

② この平和フェローシップは、世界平和の構築と紛争解決の担い手となる人材を支援育成すること、そして平和推進者の世界的ネットワークを築くことを目的としています。一言でいうと「平和の為の人材育成の奨学金制度」です。

③ 2002 年に創設されて以来、1,600 人以上の平和フェローを輩出してきました。これらのフェローは現在、140 カ国以上で活躍し、政府、NGO、教育、研究機関、平和維持および法執行機関のほか、国連や世界銀行といった国際機関でリーダーシップを発揮しています。

④ この奨学金には、入学金・授業料等の学費だけではなく住居費・食費などの滞在費・渡航費用の他インターシップと実地研修費が含まれております。かなり手厚い奨学金といえます。

⑤ 具体的には毎年、世界中から最高 130 名の平和フェローが選ばれています。そしてロータリーが提携する著名な 8 大学内に設置された「**ロータリー平和センター**」で学んでいます。

50 名が 2 年間学ぶ修士号取得プログラム

80 名が「専門能力開発修了証プログラム」

の 2 つがあります

⑥ 日本では**国際基督教大学（ICU）**が修士号取得プログラムに指定されています。毎年 10 名前後の平和フェローを受け入れています。

⑦ ロータークラブとしては、東京を中心に神奈川、埼玉、千葉の 4 都県 6 地区でホストエリア地区を形成し、毎年受け入れる 10 名の平和フェローをサポートしている形がかかわっております。そしてフェロー 1 人ひとりにロータリアンの専属カウンセラーが割り当てられます。

⑧ 毎年 10 名程度の平和フェローが ICU で学びます。

そのうち 2 名の平和フェローをこの「2790 地区」でサポートしております。米山奨学生とは違って、平和フェローが大学周辺の三鷹に住まいを設けることが多く、頻繁に 2790 地区・クラブとの接触が難しい状況です。

そういう意味で、平和フェローシップの存在が周知されていない要因になっています。

- ⑨ 当地区では2023年8月より第22期生の平和フェロー2名をサポートする役割を担っております。

2名の専属カウンセラーを中心にとアメリカとポーランドから来日してくる優秀なフェローを2年間しっかりとサポートして行く予定です。

- ⑩ さらにこのプログラムに毎年25,000ドルを地区財団活動資金(DDF)から寄贈し、2790地区は平和推進地区に指定されております。

- ⑪ かつて日本人の平和フェローは38名選出されています。そして今年1名の日本人の平和フェローが選ばれそうです。

そして、より多くの日本人平和フェローを世界に送り出したいと思います。

- ⑫ 私は、4年前にコロンビアから来た40歳の男性平和フェローのカウンセラーをやらせていただいた経験があります。その平和フェローは母国では警察官でしたが日本で平和について学んで母国に帰国した後は政治家となって平和活動したいと言っておりました。

- ⑬ 今、世界は大変重大な問題を抱えています。それは昨年2月に勃発した「ロシアによるウクライナ侵攻」です。「平和の尊さ」「平和を維持することの難しさ」をこのウクライナ侵攻によって思い知らされていると思います。

そういう観点から是非ともこの「**ロータリー平和フェローシップ**」というプログラムの重要性を再認識しました。

是非ともこのプログラムの意義をご理解いただき、平和フェロー候補者やカウンセラーの推薦、ご支援にご協力のほどお願い申し上げます。

スローガン「米山事業は日本の安全保障につながる」

将来、母国の各分野でリーダーとなる可能性のある奨学生に「日本は大事な国」と思ってもらうために、草の根活動として、米山奨学事業を活発に行うことが日本の安全保障ひいてはロータリーの究極の目的である「世界平和」につながると確信します。

### 23-24 年度 活動方針

- (1) 米山奨学生・学友の人材育成に貢献する（資料①）
  - ・今年度卓話実施クラブは 27 クラブ⇒目標 50 クラブ実施を目指す  
特に世話クラブ以外のクラブでの卓話実施数を増やす
  - ・4月29日（土）地区研修・協議会および7月8日（土）実施予定のクラブ委員長セミナーでの呼びかけ
  - ・10月の米山月間を山場とした集中取り組み
  
- (2) 学友会活動支援（資料②）
  - ・8月5日（土）～6日（日）米山学友会世界大会への参加呼びかけ、支援  
「再開 in 関東」於：つくば市
  - ・学友会メンバーの増強
  
- (3) 寄付金増進（資料③）
  - ・地区目標額 一人 15,000 円（特に特別寄付金）
  - ・米山功労者（10万円）、功労者マルチプル（20万円～90万円）の増加を推進
  - ・奨学生卓話時に同行の米山地区委員から呼びかけを行う
  
- (4) 各種行事を委員全員とカウンセラーで分担（資料④、⑤、⑥）
  - ・役割分担を明確にし、委員全員とカウンセラーが連携して活動に取り組む
  - ・主役はあくまで奨学生であり、奨学生がロータリー活動を理解し、ロータリアンと交流し、将来の目標に近づけるよう、サポートしていく

———米山奨学事業を楽しもう！！ Enjoy ROTARY！！———



## RAC 拡大委員会 委員長 中澤良夫 (四街道 RC)

2019 年の規定審議会に於いて国際ロータリーは組織規定を改正し、ローターアクトクラブを国際ロータリーの加盟クラブに含むこととしました。

マイロータリーによればロータリーとは世界 140 万人の会員から成るネットワークと記してありますが このうちの 20 万人はローターアクターとすることになります。

- ・国際ロータリーはローターアクトの目標を次のように設定しました
- ・2022 年までにローターアクトの数を 100%増やす
- ・2022 年までにそれらの報告されたローターアクターのうちロータリークラブに入会した人の数を 20%増やす
- ・2029 年までにローターアクターの数を 100 万人に増やす

現在、世界 180 の国や地域に約 20 万人の会員がおり、クラブ数は約 1 万あります  
そして 3 月は世界ローターアクト週間と指定されています。

然しながら 2019 年から始まった新型コロナウイルスの流行により 多くの地区に於いては増員どころではなく如何に減らさないかを考えさせられた期間となりました。

ローターアクトとはインターアクトの年齢制限を迎えた若者たちの次のステージです。

1968 年 1 月アメリカノースカロライナ州のシャーロットノースロータリークラブにより提唱された大学基盤のローターアクトクラブが第 1 号として設立されました。

また同年 3 月には川越ロータリークラブ提唱による大学基盤のローターアクトクラブが日本に初めて設立されました。

今年で 50 周年、聞き伝わるころによれば当地区でも数十年前の最盛期には 200 人 300 人と会員がいたようです。

ローターアクトという名称はロータリーとアクションを合わせた造語です

若者がリーダーシップの能力を磨き、世界中に友人を作りながら社会で起きている様々な課題を意欲的に取り組むことへの想いを持った 18 歳以上を対象としたクラブです

改定前ではローターアクトはその性格上、青少年奉仕委員会の小委員会でしたが

改訂 をうけ当地区でも 鶴沢年度より 大委員会となります。

さて、当地区の現状ですが クラブ数は習志野中央、市原中央、銚子科学大学、鴨川、佐倉中央、千葉マリンの 6 クラブがあり会員は 30 数名 アクティブな会員は十数名です。

活動内容の一部を紹介すると、各提唱クラブとの地域社会奉仕活動を行うほか地区インターアクトクラブの行事やRYLAセミナーを手伝う他、各クラブを訪問しての会長幹事会、他地区の年次大会や研修会、また台湾や韓国のクラブとの交流 環太平洋にあるクラブの大会、3年に1回の世界大会などロータリークラブと同等の行事や活動があります。

また少数ながら3年前に起きた台風被害では我々ロータリークラブよりも早く復旧ボランティアに入るなど 熱い活動を行っております。

新型コロナもようやく落ち着き、対面行事もほぼ通常通り行える状況となってまいりました。

鵜沢年度では皆様にローターアクトを知ってもらえるよう地区ローターアクト主催によるロータリアンとの親睦ゴルフコンペや運動会などを企画していきますので御登録の程よろしくお願い申し上げます

また 皆様のクラブ例会や研究会などにも卓話に伺いますので御子弟、社員、お知合いの20代の若者を ご紹介ください。

既存クラブへの入会もできますが 複数の候補者がいれば新クラブの結成もできます。

地区としては各グループ内に一つ以上のローターアクトクラブができるよう願っており

設立準備のサポートは地区委員会にて行わせて頂きますので、よろしくお願ひします

共に 2790 地区ローターアクトクラブを盛り上げていただけるよう重ねてお願い申し上げます

ロータリーの友委員会 代表委員 江上俊彦（千葉東 RC）

私は鶴沢ガバナーエレクトに 2023-24 年度「ロータリーの友委員会」の構成員に任命されました。「ロータリーの友」に関するガバナーの代理人として「ロータリーの友委員会」においてガバナーの意向を踏まえた建設的な提言を行う役目があります。

また、ロータリアンの情報共有が行なえ、ロータリー活動をより充実したもとするお手伝いとして「ロータリーの友」をロータリアンの皆様に読んでいただけるようにすることが第一の目的です。

その為に、地区及び地区活動と「ロータリーの友」を結ぶ地区代表委員としまして

- ① 第 2790 地区のロータリアンに対して「一般社団法人ロータリーの友事務所」が発行する「ロータリーの友」誌及びロータリーの友のウェブサイトその他の刊行物についての有効な活動を促します。また、そのために必要な活動に取り組みます。
- ② 第 2790 地区ならびに地区内ロータリークラブの活動やその他の情報収集に努めます。
- ③ 第 2790 地区内情報を友編集部に送り、それをもとにした取材に協力することにより「ロータリーの友」誌の編集に協力をいたします。

以上の活動を行う事により、鶴沢年度のロータリアンの皆様に役立てますように 1 年間の任務を全うできればと思っています。

国際大会推進委員会 委員長 内藤定雄（千葉若潮 RC）

2023—24 年度国際大会推奨。

RI 会長には、ゴードン R.マッキナリー会長が決まっております。会長テーマ『世界に希望を生み出そう』を発表いたしました。

鵜沢和広ガバナーエレクトは、地区研修セミナーにおいて 2023—24 年度地区テーマ『エンゲージメントを育もう』を発表いたしました。「エンゲージメント」約束・誓約そして貢献意欲をもとう、会員一人一人がクラブの掲げる「戦略・目標」を適切に判断し自発的に自分の力を発揮する貢献意欲の事で、会員のクラブに対する愛情や思い入れを指す事であり「個人」と「組織」が対等で、ともに成長できる関係性を築こうと話されました。

2023 年ロータリー国際大会で新たな視野を見つけ、新しいアイデアにインスピレーションを受けた参加者は、シンガポールで開かれる次年度大会に目を向けています。2024 年国際大会は、2024 年 5 月 25 日～29 日に開催されます。大会は、通常 2～3 万人のロータリアンが集う一大イベントであり、親睦を深め情報を収集したりする中で、世界のロータリーの動きを肌で感じ取る最高の機会ではないでしょうか。

シンガポールのシンボルともいえる、マリナベイ・サンズ。そして、中心部から 40 分ほどでアクセスでき、島がまるごとテーマパークみたいなセントーサ島。多彩なエンタメやスパなどに加え、絶品のレストランなど、外出する必要がないくらい楽しい施設が盛りだくさん！シンガポールで大型リゾートを楽しんでみてはいかがでしょうか。未来的な光景が広がる都心部から離れると、そこで出会えるのはエスニック色の強い、多彩なストリートの風景。小さな島にさまざまな魅力が詰め込まれた宝石箱のようなところです。

魅力あるシンガポールで鵜沢ガバナーと共に 2024 年 5 月 27 日（仮）に千葉ナイトを満喫して親睦を深めたいと思います。2790 地区の多くの会員の参加よろしく願いいたします。この後シンガポールへ下見に行った時の写真を流します。参考にしてください。

月信委員会 委員長 加藤時春 (千葉若潮 RC)

ガバナー月信はご存じの通り、次年度鵜沢ガバナーのその月その月の思いや年度を通じた方針を伝える機関紙です。

基本は各クラブの会長・幹事へのメッセージですのでクラブのリーダーであるお二人に理解していただくことが重要です。

ガバナー補佐を通じてグループ全体の情報発信も同時に行われますので併せて鵜沢ガバナーのメッセージをお受け取りいただき、クラブメンバーへ発信いただければ幸いです。

そこで一つお願いがあります。

各クラブ会報委員の方々に毎月、月信を読んだ中でメンバーに伝えたらよいと思われる情報をお選びいただき、例会で報告をお願いしたいと思います。

月信には鵜沢ガバナーからの興味深い情報が発信される他、地区で開催される行事やその報告等々、皆様に関係する情報が掲載されます。

すでに習慣化されているクラブも多数あるとお聞きしておりますが、これからのクラブに関しては会報委員会の役割として新たに加えていただき、実現いただければ幸いです。

読み易い紙面作りを意識しながら、月信委員会メンバー全員で努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。